

・雨でも休まず、215回、216回、・

## 「小原本陣の森・若柳嵐山」

- ・定例活動：6月 2日（第一土曜日）：小原本陣の森・参加費400円。弁当持参。
- ・定例活動：6月17日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流・多様な森林活動
  - \* 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自、森へ。
  - \* お昼休みには恒例・森の音楽会：ボーカリスト清家エミ子・ギター弾き語り
- 通常総会：（第5期）定例活動終了後、相模湖交流センター。
- ・臨時活動：6月23日（土）・24日（日）チェンソー講習会、新三菱キャタピラ指導  
希望者は申し込みが必要です。詳細は文中。
- ・甲州古道：23日同日、藤野域内道標設置、集合：藤野郷土資料館

- ・服装：汚れても良い服装、夏は白っぽい服、長袖・長ズボン・滑らない足元
- ・持参：なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器（碗・箸）、飲料水
- ・注意事項：危険管理・救急体制・森林ボランティア保険を掛けるなど、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

・素人集団・市民団体・森林NPOだから出来ることがある・  
若柳嵐山の森：市民団体の取り組む世界一小さなFSC認証の森

当会が認証される前の世界一小さいFSC認証の森を管理する法人は、英国の造園会社：PONDD・WOOD（約50ヘクタール）であったが、当会の“若柳嵐山の森”が認証されて、市民運動の中から世界一小さい認証の森林（41ヘクタール）が生まれた。

市民団体・NPOだから何のものにも束縛されぬ自由で柔軟な発想と行動がある。小さいから肌理（キメ）掘り下げの細かな森林活動ができる。参加者は一般市民で、親子連れから学生、年配者まで森林には全くの素人、種々多様である。素人で種々多様だからいろんな発想が出てくる。これを生かして新しい森林管理の手法開発に取り組んでいる。

### ・活動内容・

- ・森をつくる（森林環境保全） 森林整備・生態系調査モニタリング
- ・森とつなぐ（社会との協調）  
緑のダム体験学校 甲州古道復活推進
- ・森をいかす（経済性の創出）  
県産材流通システム開発 森林と都市を繋ぐ広報

## 若柳嵐山の森・臨時活動・5月3日(木・祭日・憲法記念日)

連休を活用して“若柳嵐山の森：概観”を踏査してみようとの提案を受けて快晴の新緑滴るこの日、桜井教授引率による日本大学生など9名が参加した。

基地10時出発：協力協約D地区～「巻枯し実験区」～中原尾根道～モミ大木群生地～嵐山頂上～東海自然道下山～美林の森～水源沢～ムササビ舎～陽だまりの道～基地14時着、4時間の踏査。

森林実践の碩学・桜井教授の直々のご指導は、例えば「何故、この尾根筋にモミ大木群生地(推定200～250年生)があるか」を推理するなど遙か昔、この木を植えた人の想いが伝わって来て、これまで考えもしなかった先達への想いに馳せるなど。

ムササビ家族の棲む3年前に「整備したB地区桧林」は見事な複層林になっており、ここをモニタリング観察林にしようじゃないかなど、毎月の慌ただしい定例活動のお世話係りから開放されて、ユツタリと時間が流れた。



## 小原本陣の森・定例活動・

5月5日(第一土曜日) 報告 川田 浩

5月初旬の山は、新緑に溢れて清々しい。14人が集まった。連休中にもかかわらず中里ご兄弟、親戚の方がフィールドの予定している“中里山”と隣接地との境界線確認のため参加して下さいました。

中里さんは、昭和36年頃、家2軒分の木材伐採以来、40数年振りの現地確認との事だ。子供の頃、この沢で沢蟹をバケツ一杯採ったり、雪が降れば竹スキーで沢沿いの道を滑って遊んだそう。この森を学生、学生連合 Forest Nova を含めて全員で踏査した。基地から沢に沿って中里山取り付けポイントまで約15分の作業道は、本作業に入るまでには手入りを済ませる予定だ。

中里山は、上広がり扇状地形で境界線は三方で、右の小林山境界線から左回りに確認を開始した。林相や周囲状況を見ながら境界線付近の立ち木の目通りに目印の白テープを巻いた。小さな

沢の滝石・炭窯跡など中里さんの記憶と地図とを確認しながら斜面を登る。(山内には3ヶ所の炭窯跡があるそうだ)境界線上部では、境界木が見からず境界判断に迷う場所もあった。

上部の共有林境界線は等高線が基本のようだが、地図上では一番左角が三角に膨らんでいて判断が難しく共有林との手入れの差で推定した場所もあった。共有林境界線は急斜面で雑木が繁り、境界の判断が難しいところが続出。昔の切り株や土留め跡もあったが、中里さんの記憶では当時は若木で残した木が今や、大木になっていた。境界線確認作業は1時間以上を経過して、スタートポイントに戻った。

中里家の皆さん、お疲れになったと思います。ありがとうございました。今後共、宜しくお願いします。

午後は斉藤さんと若手が山葵の種まきして収穫を楽しむにしていたが、カワナナの餌になることを期待した人もいた。基地周りの跡片付けをして作業終了。

後は、駅まで歩いて何時もの通り反省会。

### 中里さんのコメント

- 1、山は思ったほど荒れていない。
- 2、上部尾根下は手入れが出来ないので町に寄付した。

### その他

- 1、もう一度逆周りで(右回り)で、図面と林相を確認しながら境界線再確認をする必要がある。
- 2、中里山は一様でなく、下草が茂っているところもあれば、陽当たりが悪く下草のなく崩れた斜面もある。手入れの仕方を考える必要がある。

.....

### 石井山の後片付けのこと

針葉樹造林地の手入れは目的と手法がハッキリしているから整備方法は明確だが、混交林は地主さんがどう考えているかとその森の周りの関係との調和を考えねばならないから難しい。県森林課に指導を仰いだら今は、1、生産林にするか、2、生態系林にするか、3、景観林にするかの凡そ三つの考え方があろう。FSC ガイドラインでは、1、生態系保全、2、社会性、3、経済性 を満たすことを要求している。これらを勘案し地主さん、小原町の人々の



共有林隣接のこの森の境には、このような林境界が打ち込んである。



ご意見を聞いて決めようと思う。(石村記)

## 若柳嵐山の森・定例活動・5月20日(第三日曜日)

報告：伊藤小夜子

“若者に若葉” 五月晴れの美しい青空、若葉薫るこの日、若者たちの活気で華やいだ。  
ITソフトの会社エクセンチュア12名、NOVA(学生連合)10名、日大グループ7名他、計45名参加。

まずは、お久しぶりの養蜂班のお引越し。今では珍しい日本蜂が、残り一群となってしまっているのに植生の豊かな新天地・広葉樹の森で増すために、明るい広葉樹・植林地に移動した。  
(黒川)



緑のダム体験学校に参加：IT企業・エクセンチュア



石井さんによる“救急救命講習会”

次いで齋藤学校長の率いる「緑のダム体験学校」では、エクセンチュア、NOVAが参加。嵐山森づくり活動のガイド散策。手入れした整然とした森と、回れ右して放置林との違いを一目瞭然と見せたり、要所要所で森林の機能、水、空気、環境問題に絡めて土壌が1cmに成るには落葉の堆積により100年以上かかり、スポンジ状になった森を「緑のダム」と言うなどの説明があった。桧・整備林でムササビの巣の木をトントンと叩いたらナント、ムササビが飛び出して木から木へ飛び渡り、一度は見てみたいと思っていた飛行まで見せてくれた。一瞬でも見てみたい人にはラッキー！、と喜んでいたら、佐々木ファール曰く“妊娠しているかも知れないな”。(昼間、起こして、ゴメンね)

お花畑班は花壇の囲いの竹を新しくする準備と草抜き。竹は崖に近いところで切って運んで気分はターザン。竹裂きは思った以上に重労働といい汗流し。背の高い学生たちが背伸びして六角の竹裂き器を使って裂いていた。

お昼休みを使って地元・消防署勤務の石井さんの応急救急講習会。

5分圧迫の止血法や竹を当て木にした骨折の対処法を教えてくれた。また、着ている作業着を使っての担架法などを使ってなど、学生がモデルに大活躍で大切な救急法で突発した怪我のときの応急処置の仕方を教えてもらった。

“NOVAの森”に行った女子大生の中川さんに話

「天狗巢病に罹っている桜に登り、痛んでいる部分を取り除く作業は、簡単そうに見えてとても大変でしたが、やり切ったと言う感がありました」

最後のマトメの会で小出氏の「チェーンソーなど、機械を使うコツは、ゆっくり優しく」の話は、印象に残った。

相模原市・若葉祭：5月12日(土)・13日(日)

相模原市の森林率が一気に58%もの森林率になったことを知って、相模原市民には何等かの告知・広報が必要だと思っていたので4月2日、担当課(経済部・観光振興課)に相談に行った。

祭参加申し込みは1月31日に締め切っていたが、担当者は即断即決、その場で区役所横の現場150坪ほどを空けてくれた。津久井の森林を広報すべきだと言う当会の主張をたちどころ判断して結論を出してくれた担当者の技量もさりながら、相模原市の柔軟な対応に驚かされた。

テーマ 森林と都市をつなぐ：木を使うこと、森を守ること

出展者 森をつくる 津久井森林組合、北都留森林組合、NPO緑のダム北相模

森とつなぐ 都市産業研究会(相模原商工会議所内)

NPO法人自遊クラブ、NPO法人田んぼと環境研究会

NPO法人こもれび、(財)オイスカ、日大・森友クラブ

学生連合フォレスト・ノバ、

森をいかす 神奈川県建具協同組合、NPO法人SHS友の会(健康住宅推進団体)



初夏の穏やかな晴れに恵まれ市役所前大通りと、その周辺一帯で30万人とかの人出を得て盛大に挙行された。津久井の森林を広報する我々の場にも大勢の来訪者で賑わい、神奈川県および、

加山市長他、相模原市の幹部が立ち寄ってくれて活動を激励して下さり、大いに森林活動を広報して成果を得ることが出来た。10月には、川崎市で「第4回、ネイチャーフェスティバル」に繋ぐ計画を進めている。

## 森林地帯・津久井四町（藤野・相模湖・津久井・城山）と合併した相模原市の森林状況

本年、3月11日に津久井四町（藤野町・相模湖町・津久井町・城山町）との合併が完了して旧・相模原市と新・相模原市の総面積と森林面積の比較は、以下の通りである。

	旧相模原市	新市・合併後	倍率	緑比率%（単位ヘクタール）
総面積	9,039	32,883	3.6	4.7
緑比面積	427	19,011	44.5	57.8

総面積にして3.6倍、森林面積にして44.5倍になった。旧相模原市には公園課はあったが、森林課はなかった。言い換えれば、森林政策はなかったとも言える。それが神奈川県森林の21%を占める森林を管理することになったのだから余程の頭の切り替えが必要となる。また、森林管理のバロメーターである林道敷設距離は、ヘクタール辺り全国平均14m、神奈川県平均6mに対して相模原市（旧津久井郡）の敷設距離は3.8mにしか過ぎない。相模原市津久井地区の森林整備が遅れていることを示唆するものである。

神奈川県は今年から全国に例を見ない「水源環境の保全・再生政策」を年間39億円規模で開始するが、神奈川県上水の60%の水を供給する相模川水系エリアにある相模原市の林業政策はどうなっているのだろうか。いろんな情報を集めているが、それらしい資料が見当たらない。それは何も、これまでの経緯から相模原市の責任とは言えない。

神奈川県（環境農政部森林課・県北県政総合センター森林部）は、相模原市と綿密な連絡を取り合いながら相模原市の森林政策の遅れを取り戻さねばならないのではないかと。相模原市は、神奈川県の指導を受けながら、これを進めて行かれることと思う。

## 水源環境の保全・再生かながわ県民会議：5月16日（水）

かながわ県民サポートセンター大会議室で松沢県知事他、森林関係者を一堂に集めて午前10時から開催された。

金澤史男教授（横浜国大）新堀豊彦氏（NGO神奈川県自然保護協会理事長）を座長、副座長に選んで意見の交換を活発に行った。

この政策は、5年4期  
20年、38億円/年、  
と言う他に例を見ない大

関係ホームページ

神奈川県の水源環境を考える

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/mizusigen/suigenkankyo/>

なぜ神奈川県は税制改革を進めているのか

<http://www.pref.kanagawa.jp/kenzei/kaikaku/kaikakutop.htm>

型の森林の保全・再生政策である。

従って、この政策の成否は荒廃した、わが国の森林の将来を決めるか否かを占うことになりかねない。

県民は林業行政と心をつなげて取り組まねばならない。

神奈川県と新・相模原市の森林政策の整合性を心配していたが、県民会議委員に相模原市が入っており、ここでも県は水源地・相模原市への配慮がある。



相模原市：

出典：かながわの水源地環境の保全・再生をめざして

### 小原宿活性化計画（案）

相模原市は、相模湖町（小原地区）の観光開発・地域活性化に乗り出した。

■活性化方策の展開イメージ



「小原宿活性化の対象範囲と実現化方策（案）」

出典：小原宿活性化計画策定検討会 資料

昨年3月に相模湖町が相模原市と合併した後、相模原市は町の活性化に取り組んでいるが、当会が森林活動(小原本陣の森)で関わっている小原地区に付いて表題の計画案が昨年11月から検討されている。計画案内容は、以下のようにグループ分けして進められている。

- |               |            |              |
|---------------|------------|--------------|
| 1、小原の郷活性化グループ | 2、小原本陣グループ | 3、地域資源活用グループ |
| 観光ルート拠点       | 本陣の活用      | 古道の復元・活用     |
| 施設のイベント利用     | 本陣祭の運営     | 小原本陣の森活用     |
| 特産品販売         |            | 周辺・広域ハイキング   |
|               |            | 古民家・土蔵などの活用  |

この活性化案の中で、3、地域資源活用の「古道の復元・復活、小原本陣の森」に付いては、当会関連であり、相模原市は当会に期待すると言っている。現状では力不足で、取り組み方を慎重に考えたい。

小原町との関係は、石井山の地主：消防署勤務の石井明さんが「救急救命講習会」を開いてくれるなど積極的な交流が続いている。

#### 募集・伐木技術・チェーンソー技術講習会

日 時	・6月23日(第四土曜日): 講習会	場所	JR 相模湖駅側, 桂北公民館
	午前9時00 ~ 午後17時00		
	・6月24日(第五日曜日): 実技演習	場所	若柳嵐山の森
	午前9時30分 ~ 午後16時00		
講 師	新三菱キャタピラー・エスシーエム教習センター 前田幸雄講師		
費 用	12,000円、半額助成 但し、年間6回以上の会員・参加者		

.....

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと.....  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : NPO 法人緑のダム北相模

事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)

協 働 団 体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター) セブンイレブンみどりの基金

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティ神奈川県建具協同組合